

## 科目 VI 哲学的人間論

生きるためには健全で正確な哲学をもつことが不可欠条件である。人間として生きることは植物や他の動物と異なっている。意義のある人生を送るために、人間は自分自身の長所と価値観（アイデンティティー、使命や人生の目標を含む）を知るべきである。長所は無限ではなく、自分自身の価値観を追及するために与えられているものであり、そのために使うべきである。

価値観を追及することは自己実現へと導かれる。自己実現は自己中心的なものではなく利他的である。人間の存在は他者（他力）によるのであり、人間の生きる意義（目標）は他者に命を与え、その命を育成することにある。

生きることは成長することであり、成長することは変わることであり、変わるとは苦しむことを伴う。成長すればするほど苦痛は多くなる。本物の人間になることは、よく変わり、よく苦しむ過程である。苦痛なしに成長はない。死ぬことおよび死は、新しい命（生き方）への成長の最後の段階として考えられている。

不明瞭や不確実な人生の目標は、本物でない人生および病気へと導かれる原因になる。

ねらいは、

- ・人間存在の基本的な、哲学的＝スピリチュアルな基盤の理解を深める
- ・自己の人生の意義および目標を(再)確認すること
- ・哲学的な側面：人間の状態、生きる・存在と人生の 意義、困難や苦痛、死ぬことと死の意味を探る
- ・核を生きること・核から生きること

### 概要

1. 生命・人間の状態
2. 人生の意義や目標
3. 人生観・社会観・世界観や歴史観
6. 人間成長
7. 苦難と苦痛
8. 死ぬことと死
9. 自己の哲学・人間学